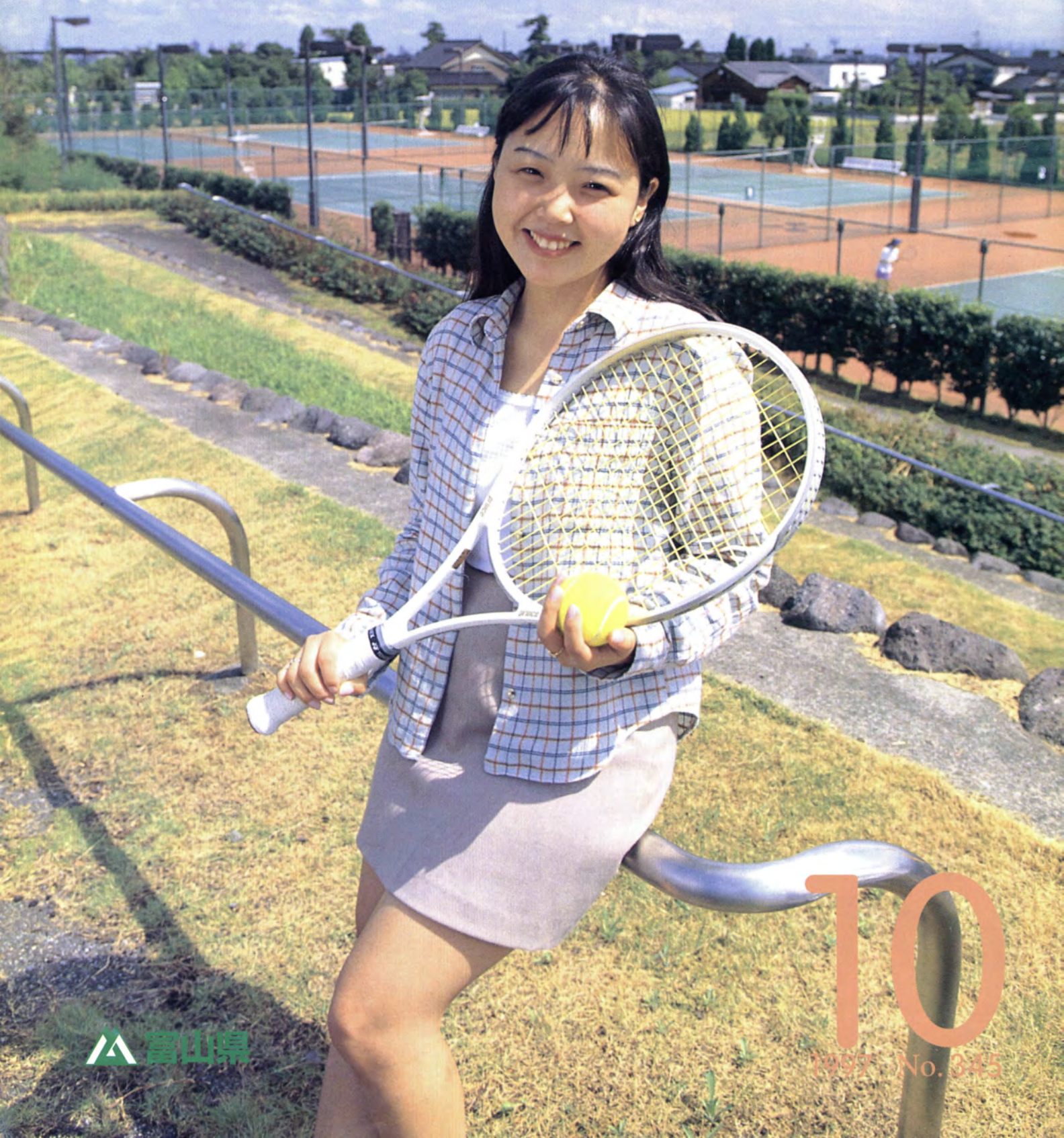


県 広 報

とやま

TOYAMA PREFECTURAL REPORT

特集/200X年のビジョン実現に向けて
～ 200X年 県民が燃えるプログラム案決定～



ひととやま
マズとやま



「人の後ろを走るのが嫌いな私の性格がよく出たレースだったと思います」と振り返るのは、八月に京都で開催されたインタハイの陸上競技で、女子四百メートルと八百メートルの二種目を制覇した龍谷富山高校三年の佐々木麗奈さん。

子どもの頃から走るのが大好きだった佐々木さんは、中学で迷わず陸上部に入部。三年のときには八百メートルで全国中学生の頂点に立ちます。今回の京都インタハイでも優勝候補に挙げられていましたが、過去に出場した二回のインタハイでは決勝に残れなかったこともあり、不安はあったそうです。「でも、レース前に先生（井上陸上部監督）が『お前が一番速い』と言ってくださったので、自信を持ってレースに臨むことができました」。レースでは、負けず嫌いの彼女らしく、最後まで先頭を譲ることはありませんでした。「タイムには満足していませんが、とりあえず自分で課した最低限の仕事ができたので、ホッとしています」。

「人の後ろを走るのが嫌いな私の性格がよく出たレースだったと思います」と振り返るのは、八月に京都で開催されたインタハイの陸上競技で、女子四百メートルと八百メートルの二種目を制覇した龍谷富山高校三年の佐々木麗奈さん。

このたびの二種目制覇は、もちろん毎日の厳しい練習のたまもの。しかし、佐々木さんは練習がきつくてやめたいと思ったことは一度もないと言います。「走るとは自分を表現できる一番の手段なんです。最高のパフォーマンスをするための練習ですから苦にはなりませんね」。



▲力強くレースを引っ張る佐々木さん

走ることは自分を表現するということ

龍谷富山高校陸上部 佐々木麗奈さん

10 CONTENTS

とやま遊学感 表紙
富山県空港スポーツ緑地 1
ひとアズとやま 龍谷富山高校陸上部 佐々木麗奈さん 2
クロージアアップ 2
① ジャパン・ウィルドライブ・フェスティバル'97 2
② 恐竜足跡化石ミステリーツアー 2
③ とやまマルチメディア祭'97 4
特集 4
200X年のビジョン実現に向けて 200X年県民が燃えるプログラム案決定 8
PINUP TOYAMA 8
写真/谷川昭夫 (富山県写真家協会会員) 8
詩/山本哲也 (富山現代詩人会会員) 10
ふるさとみてある記 (福岡町) 10
① 源太良太鼓保存会 12
② 前句愛好者 中山黙笑さん 12
③ 福岡町総合市民センター(Uホール) エッセイ/小松美英子 (富山大学理学部教授) 13
トビックス 13
ボランティア活動推進富山県民会議設立 ボランティア総合支援センター設置 14
県からのお知らせ 16
暮らしのアドバイス 16
とやま水紀行 表3
有峰湖 (大山町) 表3

とやま
遊学感

飛行機が見えるスポーツと憩いの広場

富山県空港スポーツ緑地

レポーター：瀬川佳子さん (高岡短期大学専攻課) (表紙の人)



▲心ませる“せせらぎ広場”



◀ 迫力あるジェット音を間近で

▼ 広大な芝生と遊具の広場



◀ 乾いた打球音も気持ちよく

▲ フィールド内では、サッカーやラグビーもできます。

富山空港の滑走路に沿って南北に細長く伸びる富山県空港スポーツ緑地は、飛行機が見えるスポーツ、レクリエーションゾーンとしてお勤めのスポットです。十三・四ヘクタールの緑地内には、四百メートル六レーントラックを持つ陸上競技場や、六面のテニスコートがありますが、これらは全天候型で、ナイター設備も完備しています。私はさっそくテニスコートを手にコートへ。体を動かすのは久しぶりでしたが、爽やかな秋風に吹かれてのテニス最高で、今度は友達を誘って来ようと思えました。なお、テニスコートは夜九時まで利用できるのですが、仕事が終わった後でも十分に楽しむことができます。

生が広がる「芝生広場」、遊具が置かれた「わんぱく広場」など、水と緑の憩いのスポットがたくさんあります。なかでも人気なのが「展望広場」。ここからは、空港を離発着する飛行機をすぐ間近で見ることができ、休日ともなると多くの家族連れで賑わうそうです。また、舗装された道が緑地内を一周していて、散策やジョギングにも最適です。

スポーツの秋もいよいよ本番！皆さんも富山県空港スポーツ緑地で、スポーツに、遊びに、爽やかな汗を流しませんか？

開園時間 午前9時～午後5時
(テニスコートは、日・祝日を
除き午後9時まで)
休園日 火曜日(祝日を除く)、
祝日の翌日、年末年始
※運動施設は有料(要申込み)
☎ 0764-29-7129



撮影/赤羽仁論(富山県写真家協会会員) 表紙
とやま遊学感 表紙
富山県空港スポーツ緑地 1
ひとアズとやま 龍谷富山高校陸上部 佐々木麗奈さん 2

カース・アツプ

野生生物の営みに感動した四日間

ジャパン・ワイルドライフ・フェスティバル'97〔8月21日～24日〕



▲イルカへの思いを語った
ジャック・マイヨール氏

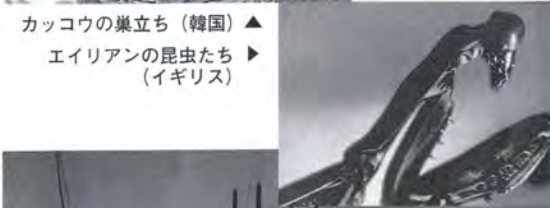
世界三大野生生物映像祭の一つに数えられている「ジャパン・ワイルドライフ・フェスティバル'97」が、八月二十一日から二十四日まで、富山市民プラザをメイン会場に開催されました。同フェスティバルは、野生生物の映像を通じて自然保護の意識を高めてもらおうと、平成五年から隔年で開催されているもので、三回目を迎えた今回は、世界二十九か国から過去最高の三百五十三作品の応募がありました。期間中はそのなかからグランプリノミネート作品を中心に一般公開。また、素潜りの元世界記録保持者、ジャック・マイヨール氏の講演や、映画監督、羽仁進氏の動物セミナー、UNEP（国連環境計画）の世界環境写真展など、多彩な催しも行われました。最終日には授賞式が行われ、グランプリを獲得した「エイリアンの昆虫たち（イギリス）」を含む十二作品を表彰。引き続き行われた閉会式では、フェスティバルを支えた百四十人のボランティアに対し、会場から大きな拍手が送られました。

期間中は、高岡市、黒部市のサテライト会場を含め、約二

万四千人が来場。野生生物の貴重な映像を通じて、自然保護への関心を深めていきました。



▲カッコウの巣立ち（韓国）
▶エイリアンの昆虫たち（イギリス）



太古のロマンに 思いを馳せて

恐竜足跡化石ミステリーツアー〔8月22日～26日〕

大山町の林道斜面で発見された恐竜足跡化石群の現地説明会が、「恐竜足跡化石ミステリーツアー」として、八月二十二日から二十六日まで行われました。

これは、同化石群が平成七年七月に発見されて以来初めての一般公開となるもので、期間中は親子連れや



恐竜ファンなど約一千人が参加しました。大山町総合体育センター前で行われた出発式では、飯幸夫大山町長が「恐竜足跡化石に太古のロマンを感じていただくとともに、その保存方法についても考えを深めてほしい」とあいさつ。現地に到着した参加者たちは、金子一夫立山博物館主任と後藤道治富山市科学文化センター



熱心に足跡化石を覗き込む参加者たち



主任学芸員の説明に耳を傾けながら、白いマークが付けられた足跡化石を熱心に見入っていました。

約四百平方メートルの斜面に竜脚類、

獣脚類などの恐竜足跡化石が散在する同地は、足跡化石の数、面積ともに国内最大級。また、先頃、これらのうち小型の足跡については、新属新種の小型恐竜のものとする説も発表され、今後ますます注目を集めることが予想されます。なお、保存上の必要性から、化石の所在地区名は、その保存措置が完了した後で公表されることになっています。

マルチメディアが創る 新時代を体感

とやまマルチメディア祭'97〔9月5日～7日〕



▲実際にふれて体感

最新の情報機器の展示やイベントを通じて、マルチメディアの普及を図り、地域の情報化を進めるため「とやまマルチメディア祭'97」が九月五日から九月七日まで、県内三会場で開催されました。

富山市民体育文化センターで行われた開会式では、同祭実行委員長の中沖知事が、「多くの方々にマルチメディアを心と体で実感してもらい、二十一世紀に向けての地域づくりに役立てていただきたい」とあいさつ。関係者がテープカットをして開催を祝いました。引き続き行われた「マルチメディア教室」では、松倉小学校（魚津市）や平中学校などの児童・生徒たちが、テレビ会議システムを利用して中沖知事と対話。知事は子どもたちの素朴な質問に終始にこやかに答えました。

期間中、同センターでは、最新の情報機器・システムの展示ブースやインターネット体験コーナー、パッチャリアリテイ体験コーナーなどが設けられ、終日多くの人々で賑わいました。また、富山県総合情報センターや富山高度情報センターでも、様々なイベントを開催。訪れた人々は、マルチメディアの可能性に触れ、二十一世紀の情報新時代を実感していました。



▲知事と小学生たちがテレビで和やかに対話

県・政・の・動・き

平成9年8月11日～平成9年9月10日

- 8月14日 Uターンフェア・イン・とやま
- 8月15日 第35回富山県戦没者追悼式
- 8月21日 ジャパン・ワイルドライフ・フェスティバル'97（～24日）
- 8月22日 恐竜足跡化石ミステリーツアー（～26日）
- 8月23日 第15回北方領土返還要求富山県大会
- 9月1日 富山県民福祉推進会議設立会議
- 9月3日 平成9年度富山県総合防災訓練
- 9月5日 とやまマルチメディア祭'97（～7日）
障害者雇用促進大会
- 9月9日 ボランティア活動推進富山県民会議設立
富山県民ボランティア総合支援センター設置



都市機能を発達させながらも、森のような深い緑の中で人と自然が共生するまちづくりを進める。そこでは、子どもから大人まで誰もが緑に親しみ、緑を広め、緑の中にくつろぐことができる。

▼木の実銀行の設立
子どもたちが拾ってきた木の実を集め

緑に包まれた自然豊かなまち

【ACT1】

「県民自身が街づくりに関わっていくべきである」という基本的認識のもと、「緑」をイメージカラーとしたまちづくりを進める。

緑は、「緑花に包まれた自然豊かな街」「安心して暮らせる街」「高齢者・障害者にも障壁のない街」を表す。また、住民の意見をまちづくりに反映させるため、新たに「200X年まちづくり委員会」を設置し、県民各層の幅広い参加を呼びかける。

プログラム案

人が、緑が燃えるまち

(預金)、苗木に育てたうえで県民に配布し(利子支払)、街中に植樹してもらう。

また、県民から預託金とともに樹木を預かって育て、預託期間が過ぎれば返却。寄付を希望する場合は、県民のネームプレート入りで緑化事業に活用する。

▼緑の帯・緑の田

樹高が高くて枝が横に広がる木を街路樹に用い、両側から道路にかぶさるようにして、道路を緑のアーケードにする。

また、広い交差点の真ん中に大木になる木を一本だけ植え、その周りに円(サークル)をつくる。サークルは信号交差点に比べて事故が少なく、街の顔にもなりうる。さらに、全ての主要道において緑のベルトが途切れないうよう街路樹のネットワーク化を図る。

▼グリーンリング

街の外縁を雑木林の「環状緑地」で取り囲み、障壁のない(バリアフリーな)遊歩道を設ける。将来的には、緑地帯の外側に大型駐車場を設け、内側には原則車両乗り入れ禁止とし、通勤などは「パーク・アンド・ライド」方式にする。

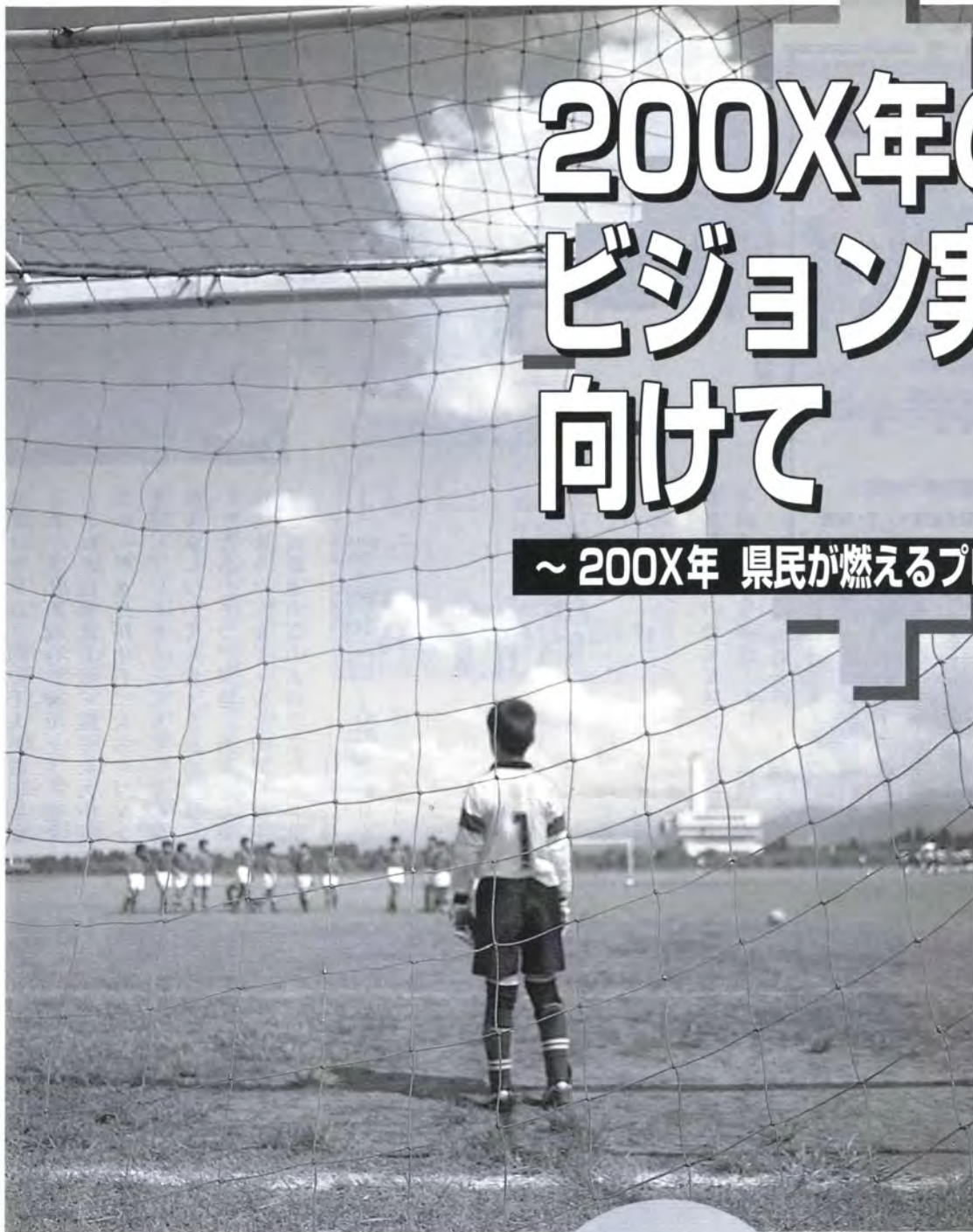
▼緑のマンパワー

落ち葉を無駄にしないために、堆肥づくりのポランテアを養成する。



200X年のビジョン実現に向けて

～200X年 県民が燃えるプログラム案決定～



21世紀初頭のビジョンを県民自らが思い描き、力を合わせて実行に移していこうという「200X年 県民が燃えるプログラム」事業が始まって3年目を迎えました。

初年度(平成7年度)は提案募集により県民の夢や関心の所在を探り、2年目からは寄せられた提案をもとに、26名の民間人からなる「200X年 県民が燃えるプログラム委員会」によってプログラム案の策定作業が進められてきました。そして、ここに3つのプログラム案が決定。今後は、これらを県民の皆さんに提案し、意見を反映させながら最終的なプログラムにしていきたいと思います。

基本は「人と人とのコミュニケーション」

このたび決定した三つのプログラム案の母体は、人が活発に動き、交流し、新しいものを生み出していこうという「コミュニケーションランドとやま構想」。つまり、富山を舞台にした人と人とのコミュニケーションが最も重要であるという認識に立っています。以下、それぞれのプログラム案の概略を紹介しましょう。

▼緑の探検隊

住民が街中の緑の良い所を見て回り、表彰やアドバイスを行う。親子で参加すれば、緑を大切に作る気持ちが次世代に受け継がれる。

快適に楽しく暮らせるまち

【ACT2】

デザインに配慮されていない雑居的な市街地、看板が乱立する大通り。私たちはこのようなまちに住みたいと望んではいない。

快適に楽しく暮らせるまちにするためには、住民が主体的にまちづくりに関わっていくことが必要である。

▼美観重視の個性的なまちづくり

住民自らがまちの顔をつくる。例えば、街の色を決めたり、通りに面した壁面をレンガ調に統一するなど、美観を重視した個性的なまちづくりを図っていく。

また、まちの緑化活動に支障を及ぼしている電柱の地中化を推進する。

▼くつろぎバリエーション(森の歩道)

子どもから高齢者までが、ゆとりを持って歩き、談笑し、くつろげる、界隈性のある歩道をつくる。

歩道の真ん中に樹木を植え、広場には大きな樹木で緑の天井を形成。歩道のあちこちにテーブルや椅子を置き、屋外の交流スペースとなる。



▼空缶ごみポイ捨ての無いまち
歩道や公園にお洒落な「空き缶ポスト」を設置。空き缶を入れるとスロットマシンが回り、当たれば景品がもらえるなどの仕掛けにする。

▼夜間活動環境の整備
町の中心部の商店街等に、午後三時から午前零時まで開店するなどの都市時間を導入し、学校や仕事の後でも気軽にショッピングなどが楽しめるようにする。これに併せて、公共交通機関の幹線ルートは少なくとも午前一時までの運行を要請していく。

【ACT3】
高齢者・障害者にも障壁のない
(バリアフリーな)まち

豊かな福祉の心の醸成には息の長い取組みが必要だが、まず、高齢者や障害者が暮らしやすいまちづくりから始めたい。

▼「ユウユウ探検隊」の実施

県民が障害者の生活を疑似体験する探検隊を編成し、自宅→銀行→美術館→デパートなどのコースを探検する。探検隊は、街中の「いいところ」を捜し出し、「いいところマーク」を貼ったり、冊子や体験談交換会を通じて県民に周知していく。



原則としてステーションの利用団体の登録などはせず、自由な交流スペースとして利用してもらう。

▼ステーションの自由な活用

また、託児施設や、希望団体が無料で利用できるメールボックス、活動発表ができる展示スペースなどを設けるほか、印刷機材の無料貸与など、チラシ等の作成についてもサポートする。

原則としてステーションの利用団体の登録などはせず、自由な交流スペースとして利用してもらう。



▼人と人をつなぐ
コーディネートセンターを設置し、団体・個人の連携を支援する。また、初心者や入門者が気軽に相談できるコーナーを設置する。

▼情報を共有

インターネット等により、ボランティア情報を家庭で見られるようにするほか、県のボランティア総合支援センターや女性総合センター等との連携を強化し、国内外の住民活動情報を集積したライブラリを充実する。



▼市民の手で運営

行政と県民の協力体制をとるが、行政は施設の管理など最低限の関与にとどめ、運営は県民各層からなる無償参加の運営委員が中心となる。昼間に活動できる主婦層、夜間に活動できる勤労者層などが、分担して運営に携わっていくことが望ましい。

▼立地場所・運営時間

買い物や通勤等のついでに入りやすい駅や大型ショッピングセンターなどに設置し、二十四時間開いているコンビニ型のステーションを目指す。

プログラム案 3
200X年
冬の火祭り
(フェス200X)

県民からの提案募集では、県内の娯楽環境や都市的な賑わい不足への不満が多く寄せられた。

そこで、「明るさ」「色彩」「祭り」をキーワードに、人々を燃えさせる火祭りを、富山駅北ブルバール地区を中心に展開。その第一回を1999年12月31日深夜から催し、併せて2000年へのカウントダウンを行う。

この祭りは、2000年以降も継続し、大晦日にテレビにかじりついていて県民のライフスタイルの変革を促す。

▼たいまつパレード

ブルバール一帯を歩行者天国とし、「火」をテーマとしたパレードを行う。パレードには、五十人から二百人程度の団体が二十ほど参加。模擬たいまつを手に、思い思いの衣装、音楽、踊りでパレードする。

また、沿道に集まる観衆が審査員となり、優秀な団体を選考、表彰する。



新年の到来とともに、環水公園の中から北陸初の冬の火花火が打ち上がり、祭典を華やかに締めくくる。

▼火のシンボルモニュメント

富岩運河環水公園横の多目的広場に、巨大なたいまつを設置。たいまつへの点火は、運河をパーク内に遡上してくる船から引き継いだ火によって行う。

▼サブイベント

ラストイヤーコンサート

県内のアマチュアバンドがオーバード・ホールに集合し、年の暮れを締めくくるコンサートを開催。コンサートには若者に人気のミュージシャンも招聘する。

冬の曇天に星を浮かべる「星に願いを」

駅北地区のビルの屋上からレーザー光線で夜空の雲に星を浮かべる。それぞれの星には、色や大きさで意味を持たせ、占いの要素の強いイベントとする。

2000年カウントダウン

新年が近づくと、多目的広場に設置された大時計の前で、詰めかけた観衆の声によるカウントダウンを開始。

ファイアーワークス

新年の到来とともに、環水公園の中から北陸初の冬の火花火が打ち上がり、祭典を華やかに締めくくる。



さて、以上が「200X年 県民が燃えるプログラム」案の概要です。プログラム委員会では、これらの案に対する県民の皆さんのご意見を受け付けています。「プログラム案の詳しい内容が知りたい」「どうすればもっと良くなるのでは?」など何でも結構です。どしどしお寄せください。

問合せ

200X年 県民が燃えるプログラム委員会事務局

〒930-80 県庁計画課内

☎0764-44-9660

FAX 0764-44-4561

電子メール 200x@pref.toyama.jp

※「200X年 県民が燃えるプログラム」事業の内容や、県民から寄せられた提案等については、インターネットホームページに掲載されています。

http://www.pref.toyama.jp/sections/1012/200x/

地下水脈を存分に吸い上げる
可憐な花卉の流体

大地の鼓動が伝わるゆるやかな斜面で
秋を見つめる私に

花は雄蕊^{おしべ}をかすかに震わせて
熟成する果実のときを告げる

花よここで何も話さなくていい
あなたは立っているだけでいい

多くの心を捨てて私はあなたを見る
こんな難しいことができそうなのだ

蕭条^{しょうじょう}たる地図がむこうにあるというのに

ふたつと
ふたつと
ふたつと

記

福岡町

人口 / 13,359人
面積 / 58.76km²
(平成9年8月1日現在)

〔福岡町の概要〕
小矢部川流域で栽培された菅笠は、全国シェア九パーセント。また、鑑賞用や食用の鯉の養殖が盛んで、特産の「鯉の新巻」、鯉エキスドリンク「鯉胆(りたん)」も好評。
「水 みどり 新しい風 キラツと福岡」のキャッチフレーズで魅力あるまちづくりを目指す。また、一部供用中の能越自動車道は、福岡町の産業、経済を大きく発展させるものと期待されている。



スピード感あふれる元気な太鼓

源太良太鼓保存会

大滝地区の村づくりの一環としてスタートし、今年で結成十年目を迎えるのが、源太良太鼓保存会だ。

「名称は、地区内に流れ、住民に親しまれている源太良川に由来します」と語るのは、会長の浦野康徳さん。同会では、古くからこの地に伝わる源太良太鼓の継承や創作和太鼓に取り組んでいる。レパートリーは「源太良流れ太鼓」や「花車」など六曲。「スピード感あふれるリズムと、体を大きく動かしながらの演奏が特長です」。

最初は「子ども太鼓」だけだったが、四年目には子ども達のお母さんを中心に練習を開始。今では子ども太鼓、大人太鼓ともに地域のイベントに引っぱりだこだ。また、昨年五月には、町と友好関係にある遼寧省遼陽県を訪問した。「大水害に見舞われた人々を太鼓で励ますための訪中

でした。熱烈な歓迎と温かい拍手が今も忘れられません」と浦野さんは微笑む。近年の少子化等で、結成当時に比べて子ども太鼓のメンバーは半減しており、浦野さんたちは対策に知恵を絞っている。「地区内だけでなく、町全体に参加を呼びかけ、是非とも継続していきたいですね」と意気込み十分の浦野さん。同会の熱心な取り組みにより、源太良太鼓の鼓動が町中に響きわたる、そんな日がいずれやってくることをう。



▲大鳴采を浴びた中国での実演



▲浦野康徳さん



▲勇ましくもかわいい子ども太鼓

ほのぼのとした大衆演芸

前句愛好者 中山黙笑さん

短歌や俳句といった短詩型文学の仲間、「前句」という大衆文芸がある。あらかじめ出題された句に答えるかたちで作品を完成させるもので、三百年以上の歴史を持つ。



▲中山黙笑さん

「例えば、『山があつたり 谷があつたり』(七・七)という出題句があれば、対応する上の句(五・七・五)を考えればいいわけです。平易な言葉で、現実を素直に詠むことが大切ですね」と語るのは、福岡町前句連合会会長の中山黙笑さん。中山さんは、十八年前から、町内外で前句の普及に取り組んできた。「町内には現在約百名の愛好者がいますが、このように多数で前句を伝承しているのは、全国でもここだけなんですよ」。

去る八月十日には、富山県民芸術文化祭の一環として、同町で「第一回富山県前句大会」を開催。「応募作品の成績発表だけでなく、前句を楽しむ農民の様子を芝居で



▲衣裳に身を包み朗々と詠みあげる(富山県前句大会)

再現するなど、前句を知らない人にも楽しめる内容にしました。会場は大いに沸きましたね」と中山さんは微笑む。さて、冒頭の出題句は同大会でのもの。多くの秀作が寄せられた中で、「結ばれて泣いて笑って五十年」が町長賞を獲得した。ほのぼのとした作風が身上的前句。興味のある方は挑戦してみてください。



▲芝居を交えてユーモラスに前句を紹介

町民の多彩な活動の拠点がオープン

福岡町総合町民センター(Uホール)



▲石田伸也さん

文化、生涯学習、生涯スポーツの拠点として、七月十日、町役場隣にオープンしたのが福岡町総合町民センター(愛称:Uホール)だ。「UホールのUには、『遊』び空間、『友』とのふれあいの場、そして『あなた』のホールでありたいという思いが込められているんです」と語るのは、館長の石田伸也さん。同ホールは、2000年とやま国体卓球会場となるアリーナ、座席数三百の文化ホール、図書館の三つをメイン施設に、フィットネスジムやイベントホール、研修室などを加えた複合施設。特に人気なのはフィットネスジムで、取材に訪れたこの日も、平日にもかかわらず、多くの人が汗を流していた。

オープン以来、多彩な機能を備えた施設ならではの相乗効果が出ている。「ジムの利用者が図書館にも立ち寄るためか、図書館の利用者が、昨年同時期の三倍を記録しています」と石田さんは目を細める。

このようにスポーツ・学習施設として利用されるほか、様々な文化イベントも開催されるUホール。「今後は、町民が自らの活動の成果を発表する場にしていこうと期待しています。ここから新たな文化が創造されれば素晴らしいですね」と語る石田さん。気軽に足を運べる施設だからこそ、今後ますます多彩な活動や交流が進んでいくに違いない。



▲舞楽をデザインした幕が特徴的(文化ホール)

●12月7日 富山県民芸術文化祭「古典芸能の祭典」開催

県からのお知らせ

募集

富山県ウイメンズフェスティバル 女性美術展作品募集

12月4日から12月7日まで富山県民会館美術館ギャラリーで開催する第18回富山県ウイメンズフェスティバル女性美術展への出品作品を募集します。

資格 県内在住(出身)の20歳以上の女性

部門 ①日本画 ②洋画 ③彫刻 ④工芸 ⑤書

応募方法 作品に申込書(サンフォルテ、県庁女性青少年課に配置)を添付のうえ、12月1日に富山県民会館美術館ギャラリーまで持参。

問合せ (財)富山県女性財団
☎0764-32-4500

富山県視覚自作教材コンクール作品募集

生涯学習や学校教育の場で広く活用できるビデオ、スライド等の視覚自作教材を次のとおり募集します。作品のテーマは、富山県の自然や歴史、文化、教育等に関するものとしします。

募集期間 12月1日(月)～12月27日(土)

部門 ①生涯学習・社会教育 ②学校教育

作品時間 5～10分

問合せ 富山県生涯学習カレッジ映像センター
☎0764-32-6420

「秋の薬草に親しむ会」参加者募集

薬用植物指導センターでは、広く県民の皆さんに薬草に親しんでいただくため、次の通り「秋の薬草に親しむ会」を開催します。参加費は無料です。

日時 10月24日(金) 午前9時30分～午後3時30分

場所 富山県薬用植物指導センター(上市町広野)

※当日は上市駅から9時15分発マイクロバス運行

内容 ・薬用酒の作り方と用い方
・耐寒性ハーブの育て方 ほか

携帯品 筆記用具、昼食

応募方法 前日まで電話で申込み(定員になり次第締切り)

応募・問合せ

富山県薬用植物指導センター
☎0764-72-0801

お知らせ

すまいアップセンター住宅相談所開設

県では、富山市と高岡市にある県のバリアフリーモデル住宅を「すまいアップセンター」として整備しました。ここでは、住宅のバリアフリー化や設計・施工などの一般的な相談に富山県建築士会会員が定期的にに応じています。

場所・相談日

・富山市バリアフリーモデル住宅(富山市月岡西

緑町) ↓第1及び第3日曜日

・高岡市バリアフリーモデル住宅(高岡市おとぎ

の森公園内) ↓第2及び第4日曜日

時間 午前10時～午後3時30分

問合せ 県庁建築住宅課
☎0764-44-3356

第48回富山県勤労者美術展開催

県内の勤労者の皆さんが、余暇時間を活用して制作した日本画、洋画、彫刻、工芸、書、写真の各部門の力作が出品されます。どうぞご来場ください(入場無料)。

開催日時 10月23日(木)～26日(日)

午前9時～午後6時(26日は4時)

会場 富山県民会館地下展示室

問合せ 県庁労政課 ☎0764-44-3256

公文書館特別企画展 「江戸期の越中文化」開催

江戸期の越中において庶民の間で行われていた文芸・娯楽(俳諧や茶の湯、草相撲、芝居、祭り)について、古文書などを通じて探ります。

開催期間 10月7日(火)～12月5日(金)

土・日曜、祝日は休館

場所 県公文書館展示ホール

問合せ 県公文書館 ☎0764-34-4050

立山博物館催し案内

●特別企画展

「カミを招くかたち 立山・現代に生きるマンダラ」

「山」のかたちとその精神性に着目し、山におけるヨリシ

ロ(神が降り立つ場)・ヨリマシ(神の意を伝える者)につ

いて、グラフィックを用いて解説します。また、江戸時代

から伝わる芦峯寺の「大祭」に関する資料を展示します。

会期 11月3日(月)まで

場所 立山博物館企画展示室

入場料 一般100円 高大生80円 小中生50円

●特別企画展講演会「立山の祭礼」

立山信仰の拠点となった芦峯寺では、「つとほ尊お召しかえ」

「歳餅神事」などの祭事が行われています。そこで今回は、

10月は労働保険適用促進月間です。

農林水産業の一部を除き、労働者を1人でも雇用している事業主は、労働保険に加入していただくことになっていきます。安心して働ける環境づくりのためにも、まだ加入されていない事業主の方は、すみやかに加入手続きをされま

すようお願いいたします。

問合せ 県庁雇用保険課 ☎0764-44-4554

または最寄りの公共職業安定所

10月はLPガス消費者保安月間です。

LPガスは、私たちの暮らしに欠かせないエネルギーの一つですが、ちょっとしたミスで爆発や火災などが発生します。取扱う際は次の点に十分注意しましょう。

- (1) ガスを使用しているときは、その場を離れない。
- (2) 出かける時は、ガス栓を閉める。
- (3) 瞬間湯沸器や風呂釜が屋内にある場合は、換気や吸排気に注意する。

改口発

「活かして使おう、大切な土地を！」 ——土地はみんなの財産です。——

国土庁では本年度から10月1日を「土地の日」と定めました。これに合わせ、10月を「土地月間」として、土地の有効利用の推進を呼びかけています。

土地は限られた貴重な資源です。適正かつ計画的に利用して、豊かで住みやすいまちづくりを進めましょう。

問合せ 県庁水雪土地対策課

☎0764-44-3131

みなさんの相談窓口

- 県政について
県民相談室 富山市新総曲輪1-7(県庁内)
☎(0764)31-3131(県民相談電話)
FAX 44-3300(県政課7F)
- 高岡地方県民相談室 高岡市赤祖父211(総合庁舎内)
☎(0766)21-9411(代)
- 魚津地方県民相談室 魚津市新宿10-7(総合庁舎内)
☎(0765)24-5311(代)
- 砺波地方県民相談室 砺波市幸町1-7(総合庁舎内)
☎(0763)33-5151(代)

- 物価ダイヤル
物価に関する苦情や相談があればお気軽にお電話ください。☎(0120)16-7400(県庁県民生活課内)
- 消費生活については
消費生活センター
富山市湊入船町6-7 サンフォルテ内
〈一般相談は〉☎(0764)32-9233
〈金融相談は〉☎(0764)33-3252
- 消費生活センター高岡支所
高岡市本丸町7-1 本丸会館内 ☎(0766)25-2777
- 交通事故については
富山県交通事故相談所東別館1階
☎(0764)31-4111 内4400
- サンフォルテ電話相談
あなたの生き方、家族や職場の悩みごとの相談は
☎(0764)32-6611
- 相談110番
家庭問題・悪質商法など、どんな相談にも応じます。
☎(0764)42-0110
- シルバー110番
高齢者や家族の心配ごと、悩みごとに富山県高齢者総合相談センター ☎(0764)41-4110
- よい子の電話相談
子育てに関して心配や悩みにお答えします。
☎(0764)33-4150(県庁生涯学習室内)

県からのホットニュース

- テレビ広報
■チューリップテレビ 毎週日曜日 PM5:15～5:30
「ふるさとトーク」
- 富山テレビ 毎週日曜日 AM9:00～9:30
「12万人のひろば-クイズ/フォーカス/イン」
- 北日本放送 毎週日曜日 AM11:00～11:30
「こんにちわ富山県です」
10/5 未来を築くパートナーシップ
10/12 我がまちふるさと自慢 ～氷見市～
10/19 21世紀の住まいづくり
10/26 秋の味覚を楽しもう
- 北日本放送 毎週土曜日 AM9:30～9:45
県教育委員会 小さな手 大きな目「あしたの家族」
- ラジオ放送
■FMとやま「ふれあいホットライン」
県内各地からホットな話題をおとどけます。
毎週月～金曜日 AM9:50～9:55
- 新聞広報「県からのお知らせ」
■北日本、富山、読売、北陸中日、朝日、毎日
毎月第2、最終土曜日

平成9年 11月 街頭献血日程

| 日 | 曜日 | 献血場所 | 時間 |
|----|----|--------------|-------------|
| 2 | 日 | 細入村役場前 | 10:00～14:00 |
| 3 | 月 | 福野町園芸植物園 | 10:00～16:00 |
| 7 | 金 | 氷見市役所前 | 12:30～16:00 |
| 9 | 日 | 富山市中央通り | 10:00～16:30 |
| 14 | 金 | 大沢野町役場前 | 12:30～16:00 |
| 21 | 金 | 大山町役場前 | 12:30～16:00 |
| 23 | 日 | 黒部ショッピングセンター | 10:00～16:00 |
| 30 | 日 | 高岡サティ | 10:00～16:00 |

※都合により変更する場合がありますので、当日の新聞・テレビの街頭献血案内等でご確認ください。

●マリエとやま6階の献血ルームでは、月曜日を除く毎日(年末年始、マリエ休館日を除く)献血を受け付けています。

受付時間 全血献血 10:00～12:30 14:00～18:00
成分献血 10:00～12:00 14:00～17:30

●マリエ献血ルーム(TEL0764-45-4500)
血液センター(TEL0764-51-5555)



とやま
水紀行

紺碧の湖面に映える秋色の原生林

有峰湖(大山町)

大山町にある有峰湖は、常願寺川支流の和田川をせき止めて造られた県内最大のダム湖である。有峰ダムの建設工事は、昭和十二年に着工。一時戦争による中断があったが二十年余りの歳月をかけて昭和三十五年に完成した。ダム湖の豊富な水は、水力発電に利用されているほか、常願寺川流域の農業用水や富山市の工業用水、市民の喉を潤す飲料水となっている。

湖周辺に生い茂る原生林が織りなす秋の紅葉は格別。いちばん高い一帯にはブナ林、その下部にミズナラ林、トチノキ林が広がり、それらが微妙にトーンを変えながら辺り一面を華やかに染め上げていく。また湖面近くの西岸から南岸をおおう大規模なシラカバ林が、紅葉の中にアクセントを添える。

さて、湖一帯は多様な植物の宝庫。特にミズバショウ、ヤナギラン、クガイソウは「有峰の三名花」と呼ばれており、その昔、それぞれの花の精が白色、薄紫色、紅色の着物をまとった美女に姿を変え、村人たちの祝宴の席に現れたという伝説も残っている。

紅葉は十月後半が最盛期。鮮やかな紅葉と紺碧の湖、そのバックには新雪を抱いた薬師岳。美しいコントラストは、訪れる人々を魅了してやまない。

暮らしの
ドバイ

大豆のジョブネース



遺伝子組換え野菜

大丈夫かしら...



遺伝子組換え農作物とは?

Q 最近よく耳にする「遺伝子組換え農作物」とは、いったいどのようなものなのでしょうか?

A ある生物から有用な遺伝子を取り出し、改良しようとする生物に導入することで、新しい性質を与える技術を遺伝子組換え技術といいます。「遺伝子組換え農作物」とは、この技術を用いて作り出した農作物のことです。農作物への遺伝子組換え技術の利用は、新品種の開発や世界の食料問題等を解決するものとして期待されています。

現在、国内で流通しているのは、アメリカやカナダなどで開発された大豆、ジャガイモ、トウモロコシなど五種類、十五品目。これらは、厚生省が安全性を確認して流通を認めたもので、食卓にのぼる際には、植物油、豆腐、フライドポテト、コーンスターチなどになります。

遺伝子組換え農作物には、次のようなものがあります。「除草剤の影響を受けない大豆」：特定の除草剤の影響を受けなくするタンパク質を作る遺伝子を大豆に組み込んだもの。除草剤の散布回数、散布量の軽減につながる。

「害虫に強いジャガイモ」：害虫の天敵である微生物から、特定の害虫のみに効果があるタンパク質をつくる遺伝子を取り出し、ジャガイモに組み込んだもの。殺虫剤の散布回数、散布量の軽減につながる。

一方、消費者の間では、これらの農作物の安全性への不安が解消されていません。このため、海外で栽培・商品化されているものについても、国内で流通させるにあたり、関係省庁が所管分野の指針に基づいて、従来種と同等であることの確認を行っています。また、商品選択の判断材料として、表示の義務づけを求める動きが強まっているため、農林水産省では「食品表示問題懇談会遺伝子組換え食品部会」を設け、表示のありかたについて検討を進めています。

相談は、県消費生活センター、電話0764(32)9233、高岡支所、電話0766(25)2777

編集後記

★「先生の言葉が力になりました」と、インタハイ二冠の佐々木さん。僕の頭には、とっさに「師弟関係」という言葉が思い浮かんだ。瀬古利彦と故中村監督、鈴木博美と小出監督…。陸上の世界では師弟と呼べる人達が多い。

幾分古い響きを持ったこの言葉だが、単なる先生と教え子ではなく、絶大な信頼のうえに成り立った関係だけに捧げられるものなのかもしれない。(M・K)

★有峰湖周辺は、パーベキュー広場、キャンプ場、湖をめぐる遊歩道などが整備されていて、行楽地として人気のある所。秋は紅葉を楽しみに出かける方も多いのでは。季節の変化がはつきりしている年は紅葉がきれいとのこと。今年はどうかな。「紅葉を見に行こうよ」と、含意言葉にまわりの方を誘ってみよう。(M・I)

★一時は十数名にまで減った前句愛好者を現在の数にまで増やした中山さん。その地道な活動や熱意には、心から敬服する。前句は、元禄年間に全国で流行。歴史的には俳句や川柳の兄貴分に当たるといふ。人気の点では弟たちに大きく水をあけられているが、ほのぼののあんちゃん”の良さが見直される時がきつとやってくると思いたい。(Y・I)

● 今月号で掲載したPIN UP TOYAMAの写真
● を抽選で5名の方にワイド六ツ切(25×18
● センチ)でプレゼントします。希望される
● 方は、官製ハガキで下記の様式でお申し込
● みください。平成9年11月21日消印有効です。

| | |
|------------------------------|--------|
| 富山県広報課 写真プレゼント 10月号係あて | 930 00 |
| 氏名 | 住所 |
| 年齢 | 電話 |
| 本誌を読んだ感想 | |



「地球と共に、私の住まい」を開催テーマに、いよいよ「97スーパーハウジングフェア in 富山」が開幕します。富山産業展示館（テクノホール）をメイン会場に、二十一世紀を展望した新しい住まいや住まい方を提案するほか、子どもから大人までが楽しめるイベントが盛り沢山。皆さんのお来場をお待ちしています。

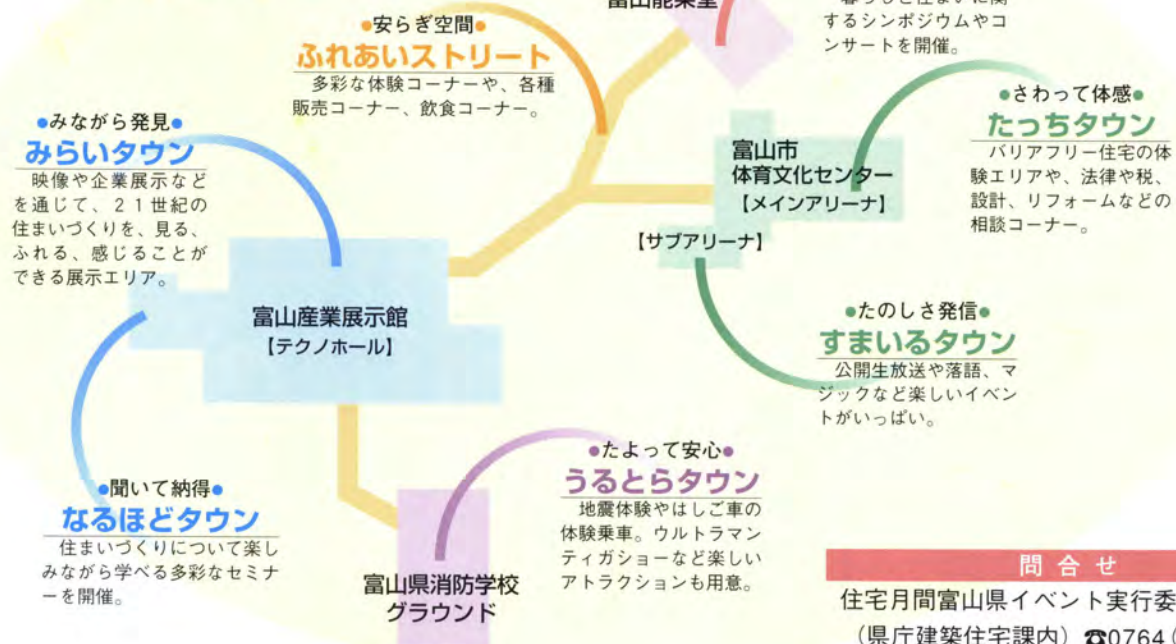
第9回住宅月間中央イベント

'97スーパーハウジングフェア in 富山

平成9年10月9日[木]～12日[日]
メイン会場／富山産業展示館

■主催／住宅月間富山県イベント実行委員会、住宅月間実行委員会、住宅月間中央イベント実行委員会
■後援／建設省、富山県、富山市、富山県市長会、富山県町村会、住宅金融公庫、住宅・都市整備公団

会場構成 ふれあいタウン



問合せ
住宅月間富山県イベント実行委員会事務局
(県庁建築住宅課内) ☎0764(44)3359